

農業委員会だより

24年度事業計画を決定

第97回農業委員会総会は4月12日、和賀庁舎で開催され、本年度の事業計画が決定されました。

今年は農地法等の厳正執行、農地流動化による地域農業の再編、担い手としての意欲ある農業者の確保・育成に全力を注ぎ、農業者の要請を踏まえた農政の実現に努めます。

また、関係機関などと連携を図りながら、6次産業化の推進ときたかみ地域農業マスタープラン（人・農地プラン）策定に向けた取り組みを積極的に展開します。

主な活動計画は次のとおりです。

1 会議の開催

総会、農地・農政部会を定期的に開催し、重要課題の適正処理にあたる。



総会では活発な議論が行われました

2 委員研修及び調査の実施

「行動する農業委員会」として活動を強化するため、必要な研修を行う。

◇優良農地の確保とその有効利用に向けた研修の実施

◇担い手の確保・育成に向けた研修の実施

3 関係機関などとの連携強化

県および農業関係機関、団体との連携を密にし、最新の農業情勢や経済情報を的確に把握し、きたかみ地域農業マスタープラン（人・農地プラン）の策定に向けた取り組みを支援する。

4 広報活動の強化

全国農業新聞の普及拡大や農業委員会だよりの発行を通して、積極的な農政関連情報の提供に取り組む。

5 遊休農地（耕作放棄地）の有効利用促進

昨年度の農地パトロール結果に基づき、耕作放棄の状態から解消すべきと位置付けられた農地について、所有者の意向確認を踏まえ、遊休農地に対する利用促進の指導を行う。

「農地パトロール強調月間」を設定し、優良農地の確保とその有効利用に向けて取り組む。

6 関係機関に対する建議・要望

農業者や地域農業の立場に立つて、農林業施策に関する建議書、

7 要望書を提出する。

主要な事業

◇農地調整事業

優良農地の確保と遊休農地の有効利用を促進し、農地の利用調整を推進する。

・農地の利用集積

・贈与および相続に伴う納税猶予

・手続きの相談・助言

◇農政活動事業

意欲ある全ての農業者が農業を継続し、経営発展の環境が整えられるように取り組みを行う。

・水田経営所得安定対策事業

・6次産業化による農産物加工の普及推進

・農地と担い手を守り活かす運動

・中山間地域活性化に向けた取り組み

◇農業者年金業務事業

農業者の老後生活安定のため、農業者年金の加入促進に取り組む。

・政策支援制度を中心とした新制度の周知徹底

・農業者年金の加入促進

・農業者年金相談会の開催

地場産品を学校給食へ

北上地方生活研究グループ連絡協議会は、本年度も会員がつくった新鮮な野菜を西部学校給食センターに納入しています。



安全でおいしい食材を届けます

本協議会は直売や食育に関する活動を行って、平成22年度から学校給食に使用する食材を納入。本年度は2月に開いた「地場産野菜の納入検討会」で、グリーンアスパラガス、長ネギ、玉ねぎ、ピーマンを納入することになりました。

学校給食への納品は、調理時間の制約による早朝の納入指定や機械調理のための納品規格の統一、生産者間の納品調整による一定納入量の確保など課題は多いですが、皮むきなどの下処理を行う野菜カットセンターと連携を図りながら、地元食材の更なる利用に取り組んでいきます。

（農業委員 高橋 マサ子）

■審議データ

農地の権利移転・利用権設定等審議内容

上段 審議件数 下段 面積(m²)

農地法	3月	4月	5月
3条	4	8	6
	5,271	96,450	89,053
4条	1	1	1
	63	2,527	304
5条	9	7	11
	12,615	2,928	8,096
適用外証明	1	0	1
	90	0	4
農用地利用集積計画	113	73	16
	758,586	453,139	91,632

- ◎農地法3条…農地の所有権、賃借権などの権利を設定または移転する場合
- ◎農地法4条…自己所有農地を転用する場合
- ◎農地法5条…農地の所有権、賃借権などの権利を設定または移転して転用する場合
- ◎農地法適用外証明…農地を20年以上他の目的に使用しており農地の復元が不可能な場合
- ◎農用地利用集積計画…農地の所有権、賃借権などの権利を設定または移転する場合で受け手側が大規模農家の場合

■これからの主な行事

- 7月20日(金) 農地部会
- 7月23日(月) 農政部会
- 8月24日(金) 農政・農地部会
- 9月21日(金) 総会、農政・農地部会



岩手県農業会議三浦事務局長(右)から賞状を受け取る及川編集委員長(左)

新農業委員紹介



小原 敬 氏
(和賀町山口・農地部会)

発令年月日
平成24年4月1日
岩手中部農業共済組合推薦

我が家の農業後継者

昆 稔美 さん
(48歳・鬼柳町)

鬼柳町笹淵の昆稔美さんは、父の英史さん、母の正子さん、妻の裕実さんと1人息子の5人家族。稔美さんは花巻市内の会社に勤めていたが、平成15年に結婚し、父の英史さんが経営する農業を手伝うようになりました。現在は、水稲6・5ha、大豆4haを稔美さんが中心となって耕作している、英史さんは基本的な農作業と技術助言を行う程度です。



(上)田植えに精を出す稔美さん
(右)苗運びを手伝う英史さんと母の正子さん

稔美さんは「毎日の作業に追われて忙しいが、作物の成長を見ることで、農業の楽しさ、面白さがある」と、ますます意欲を燃やしている農業後継者です。
(農業委員 及川 定美)

農業委員会だよりも「全国農業新聞賞」受賞

北上市農業委員会だよりは、第18回(23年度)農業委員会だより全国コンクールで「全国農業新聞賞」を受賞し、4月25日に岩手県農業会議の三浦良夫事務局長より賞状が伝達されました。

全国農業委員会系統組織(市町村農業委員会、都道府県農業会議、全国農業会議所)では、農業委員会の情報活動の支援・強化や誌面の充実・向上を図るため、農業委員会だより全国コンクールを平成6年度から実施。北上市は第11回(16年度)の「全国農業新聞特別賞」以来7年ぶりの受賞となりました。

賞状を受け取った及川定美編集委員長は「これからも農業者や市民の目

線に立った読みやすい紙面づくりに努め、より上位の賞を目指したい」と意気込みを語っていました。

融雪促進支援を要請

農業委員会は3月23日、市とJAいわて花巻に対して融雪促進支援に關した要請をしました。

今年は春分を過ぎても、地域によっては相当の積雪があったため、農業者からは春先の育苗をはじめとする農作業の遅れを心配する声が多く聞かれました。

このような状況から、3月の総会で決議。既にJAでは、小麦、露地野菜、リンドウに対する支援を行っていますでしたが、水稲の育苗に対する支援についても強く要請しました。農業委員会は、これからも農業者の声を聞き、農業者が抱える問題の解消に向けて行動します。